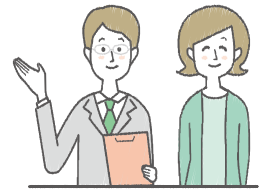


～豊かな人権意識を育む～

## 小学校・中学校の人権学習を紹介します



問人権・同和教育課 ☎72-2111

小・中学校では、子どもたちが偏見や差別に対しておかしいと気付き、行動できるような感性を育て、社会をより良くしていく仲間の一人となるような学びの場をつくっています。

### 小学校低学年の取組

#### 性の多様性についての学習

まず、子どもたちに、自分の好きな色について考えてもらいました。その後、好きな色を発表する中で、色と結びつくイメージや性別の決めつけがあることに気付きます。

先入観で人を傷つけてしまうことや、色に対する感じ方や考え方の違いを認め合うことで、よい関係をつくれることを学びました。



#### 子どもたちの声

- 好きな色は、女の子の色も男の子の色も決めつけない
- 好きなことは一人ひとり違っていいから、うれしかった
- 好きな色はだれでも違う。勝手に決めつけられたらだめ。好きなものを好きと言っていいと知ってよかった
- 決めつけはだめってわかった。人それぞれってわかった



### 中学校の取組

#### 「解体新書」作成を通して差別を乗り越えた生き方に学ぶ

「近代医学を発展させた人々の生き方に学ぼう」をテーマに人権学習を行いました。

江戸時代、差別を受けていた人々の中には、優れた解剖の技術を持つ人がいました。その人たちが医学の発展に貢献したことや、杉田玄白が差別や偏見を乗り越えて「解体新書」を作成したことを中心に学習しました。

#### 子どもたちの声

- 差別する側の人でも、差別はおかしいと思う人もいるかもしれないので、そういう人たちが手を取り、差別はおかしいと言っていけば周りもついてきてくれると思う。まずは行動することが大事だと思った
- 差別を受けながらも労働の中で解剖の技術や人体についての知識を身につけた人々がいることに杉田玄白が気付いてよかった

#### 保護者の声

- 怖いこと(知らないこと)を避ける気持ちが差別につながるという姿が感じ取れる内容だった。差別をなくすことは、正しいことを知ることだと感じた。これをもとに、何に対してもうわさばかりで不安になるより、「知る」ための行動を起こすことが、差別をなくす一歩だと子どもたちにも感じてほしい
- 近代医学を支えた人々について、丁寧にみんなで学んでいるということを知り、ありがたく感じた。子どもたちは「差別はおかしい」と知っている、わかっていると思うが、学びを通して、何度でも正しく知り、自分を見つめていくのだなあと感じた